

支援プログラム（児童発達支援）

事業所名：児童発達支援事業所はじめのいっぽ

作成日：令和7年6月1日

事業所理念	・私たちは子どもの個性、人権を尊重し、愛情をもって支援することで、安心できる生活の中で心身ともに健やかな成長、発達を促します。 ・私たちは子どもたちにあらゆる選択の場面を設け、自分から発信して決定する力を培います。 ・私たちはご家族との連携を大切に、子どものスモールステップをともに喜び合います。 ・私たちは子どもたちひとりひとりが見通しを持って生活できる環境を個別に整えることで、自立心、生きる力を育みます。		
支援方針	お子さんの困りごとを構造化や環境を整えることでひとつひとつ解決し、見通しを持った生活を送れるように支援します		
営業時間	9時00分から15時00分まで	送迎実施の有無	なし

		支援内容
本人支援	健康 ・ 生活	・お子さんの特性に配慮して、時間や空間をご本人に合わせて構造化（視覚支援・タイマー・スケジュール） ・衣服の着脱、食事スキル、排泄の自立など、基本的な身辺自立スキルの習得支援 ・粗大運動（サーキット遊び、トランポリン、フレキサースイング等） ・巧緻動作（手あそび、スプーンや箸等の道具の使用等）
	運動 ・ 感覚	・粗大運動（サーキット遊び、トランポリン、ボールプール、フレキサースイング） ・バランス調整力の獲得（正中線） ・手先の巧緻動作（ひも通し、ペグ差し、プットイン、洗濯ばさみ、お絵描き、筆等） ・道具の使用（のり、はさみ、箸、スプーン等） ・協調運動（なわとび、マット、跳び箱等） ・感覚遊び（水遊び、砂場あそび、スライム、粘土、トランポリン、ボールプール、フレキサースイング等）
	認知 ・ 行動	・視覚的な手がかりを使って時間、場所、行動の理解を深める ・ワークシステム（得意なことはさらに伸ばし、苦手なことは短時間で取り組み、ゆっくり獲得を目指す） ・模倣運動（おはようのうた、手あそび、デジタル教材を使った模倣運動） ・あそびを通して、色、形、大小、量、数等の概念形成を育む（季節に応じたテーマ療育） ・あそびを通して「止まる、待つ」理解を深める ・文字や絵カードへの興味、獲得に向けた本人に合った個別支援

	言語 ・ コミュニケーション	・言語と行動の結び付けからのことばの獲得 ・お子さんが理解・使用できる感情理解、要求促進グッズ（PECS、独自カード等）のトレーニング ・模倣運動（おはようのうた等を通した口の動き、発声）
	人間関係 ・ 社会性	・あそびを通して、お子さんが職員からできたことをいっぱいほめられることで、お子さんの職員に対する愛着関係、信頼関係が構築できるようにする ・職員との愛着関係、信頼関係を基盤として、小集団あそびの中での他児へのかかわり方を意識づける ・あそびを通してルールの理解を深める
家族支援		利用した日の療育内容やその日のお子さんのきらりと光った出来事をお伝えする。その中で適切な関わり方があればアドバイスする。保護者の悩みや困りごとを聞き対応を助言したり療育の中で対策に取り組む。きょうだい児に関する悩みごとにもアドバイスを行う。
地域支援・地域連携		保育所等に訪問して、お子さんに対するかかわり方についてその園に助言等を行う。また児童発達支援センターなどないろと情報共有してアドバイスされたことを参考して支援に取り入れる。
移行支援		小学校進学への変化に合わせて連続した支援を実施できるよう、本人へのかかわり方や落ち着く環境などを伝え、本人が過ごしやすくなるように連携する。
職員の質の向上		他事業所やセンターの見学 児童発達支援管理責任者主導による事例検討を行い、支援方法やその意義などの理解を深めることで職員の質の向上を図る 専門的資格の取得や知識の獲得のための外部の研修に参加する
主な行事等		月2回、土曜日に保護者参加のもとでの個別支援日を設けます。（1人1時間）